

周産期・小児医療に係る主な事業実績（見込）等について

1 周産期医療

1 遠方の分娩施設への交通費等支援事業〔R 6 新規〕

ア 事業概要

遠方の分娩取扱施設で出産する必要がある妊婦の経済的負担の軽減を図るため、出産の際の交通・宿泊費の助成を行う市町村に対して、費用の一部を助成する

イ 実施状況

令和6年度、9市町村に対し、助成予定

2 周産期母子医療センター支援事業

ア 事業概要

新生児死亡等の低減や未熟児医療の充実を図るため、周産期医療体制の拠点である周産期母子医療センターに運営費の補助を行う

イ 実施状況

令和6年度、鹿児島市立病院、鹿児島大学、いまきいれ総合病院、済生会川内病院に対し、補助予定

3 産科医療体制確保支援事業

ア 事業概要

産科医療体制の確保が困難な地域において、産科医や助産師等を確保するために人件費等の補助を行う市町村等に対して補助を行う

イ 実施状況

令和6年度、4か所に対し、補助予定

（内訳）

- ・北薩地区（3市2町）
- ・南薩地区（3市）
- ・種子島地区（1市2町）
- ・垂水市 ※新規のため詳細を確認中

2 小児医療

1 離島地域子ども通院費等支援事業〔R6新規〕

ア 事業概要

島外の医療機関への通院等が必要となる離島地域の子育て家庭に係る経済的負担の軽減を図るため、子どもの通院等に要する交通・宿泊費の助成を行う市町村に対して、費用の一部を助成する

イ 実施状況

令和6年度、15市町村に対し、助成予定

2 小児在宅医療環境向上事業

ア 事業概要

在宅での医療的ケアを必要とする小児患者やその家族における在宅医療環境の更なる向上を図るため、医療関係者向けの実務研修会等を開催する

イ 実施状況

令和6年度、以下の取組を実施

- ・ 小児訪問看護師育成研修（座学・実地研修等）の開催・・・R6.9～12月
- ・ 小児在宅医療推進研修会の開催・・・R7.1.24
- ・ かごしま子ども在宅療養ナビ「そよかぜ」（ウェブサイト）の運用

3 日中一時支援事業〔R6新規〕

ア 事業概要

安心して在宅医療等に移行できる体制を整備し、NICU等の病床確保に努めるため、日中一時支援を行う医療機関に対して支援を行う

イ 実施状況

令和6年度、1医療機関に対し、補助予定

4 小児救急電話相談事業

ア 事業概要

小児患者をもつ保護者等からの夜間の電話相談に対し、看護師等が症状に応じた適切な助言を行う

イ 実施状況

相談件数 11,840件（R5）

3 災害時小児周産期リエゾン

災害時に、特に医療のサポートが必要となる妊産婦・新生児等に適切かつ迅速に対応できる体制を構築するため、災害医療コーディネーターのサポート役となる「鹿児島県災害時小児周産期リエゾン」（以下「リエゾン」という。）を令和３年度から委嘱

1 災害時小児周産期リエゾンの養成

- ・ 令和６年度までに２５名のリエゾンを養成（Ｒ６の国研修受講予定者含む）
- ・ 令和７年度は、薩摩地区の医師１名とコメディカル２名、奄美地区のコメディカル１名の計４名の養成を予定

〈Ｒ６ リエゾンの養成状況〉

小児・産科医療圏	産科・新生児科	小児科・小児外科	コメディカル	計
薩摩（鹿児島・南薩）	９	７	１	１７
北薩（川薩・出水）	２	－	１	３
始良・伊佐	－	１	－	１
大隅（曾於・肝属）	－	１	１	２
熊毛	－	１	－	１
奄美	１	－	－	１
合計	１２	１０	３	２５

2 災害時小児周産期リエゾンの訓練・研修

ア 県災害時小児・周産期医療研修会の開催

- ・ 期 日 令和６年６月２１日（金）
- ・ 参加者 小児・周産期医療関係者等 １００名

イ 県災害時小児・周産期リエゾン技能維持訓練

- ・ 期 日 令和６年６月２２日（土）
- ・ 参加者 リエゾン１５名、災害医療コーディネーター等 １６名

ウ 大規模災害対策情報システム（ＰＥＡＣＥ）入力訓練

- ・ 期 日 令和７年１月～３月（予定）

⇒ 令和７年度も、引き続き訓練・研修を実施予定

また、「ウ 大規模災害対策情報システム（PEACE）の入力訓練」については、鹿児島産科婦人科学会と連携しての開催を検討中